

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101652	
法人名	社会福祉法人 すだち会	
事業所名	すだち会グループホーム	
所在地	徳島県徳島市大原町余慶71番地の2	
自己評価作成日	平成29年8月30日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階	
訪問調査日	平成29年10月24日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田畑に囲まれ、緑豊かな自然が広がる静かな環境の下、理念に『地域の中で笑顔と安心に満ちた毎日』を掲げ、暮らしの中で生き甲斐や喜びを見つけ、自分らしく、好きなときに好きなことをし、好きな物を食べ、安心して笑顔で心地よく過ごしていただけるよう支援している。また、“地域密着型サービス事業所”として、利用者が地域の一員として地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう、隣近所の人たちが気軽に立ち寄り遊びに来たりできる場を作り、利用者を共に支えていけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街の中に位置しているが、周辺には田園が広がり自然豊かな環境にある。玄関先には、多種多様な木や花が植えられるなどしており、季節感を感じる事ができる。事業所の菜園では、利用者と職員が野菜を育てている。収穫された野菜は、献立に取り入れている。管理者と職員は、地域の福祉拠点としての使命や役割を果たせるよう、地域の相談窓口として地域の住民からの相談にも応じている。また、“すだちカフェ”を開催するなどして、利用者と地域住民、ボランティアとの交流の場が広げられるよう支援している。職員は、利用者の誕生日には一人ひとりの希望する馴染みの場所に出かけたり、弁当を持参して植物園などにピクニックに出かけたりして外出支援をしている。管理者は、職員一人ひとりのケアに対する思いや気付き、アイデアなどを大切に考え、個々の意見に耳を傾けるなどして働く意欲の向上につなげたり、業務改善に向けた実践の機会を設けたりしている。全職員は、利用者一人ひとりの身体機能の維持やサービスの質の向上に向け積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた、事業所独自の理念を掲げ、毎日の朝礼で“職員の心得”とともに共有し日々の実践に活かす介護を心掛けている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。理念の実現に向けて、基本方針を定めるなどしている。職員は、理念を支援の原点として捉え、日々のケアの実践に努めている。職員間で理念について話しあって共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いつでも来所して頂けるホームとして地域に知って頂けるよう、月に一度、「すだちカフェ」を開催し、地域の方にボランティアに来てもらったりカフェを利用して頂き、利用者との交流を大切にしている。	事業所は、地域の福祉拠点としての使命や役割について地域の住民等に伝えている。地域住民やボランティアの協力を得たうえで、毎月“すだちカフェ”を開催し、気軽に立ち寄りもらえる機会を設けている。小学生などの、来訪も受け入れており、相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に気軽に「すだちカフェ」を利用して頂きグループホームの利用者との交流を通して、認知症の人の理解や支援の方法を広く伝える事ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、利用者の状況や行事について報告している。また、テーマを決めて研究発表や出席者との意見交換をし、アドバイスや提案をサービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況や行事等について報告するなどして、出席者から意見や助言を得られるようにしている。出された意見等は全職員で共有しサービスの質の向上につなげている。職員は、交代でサービスの質の向上や課題解決に向けた研究発表も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定の更新手続きや、運営推進会議の議事録、利用実績報告書等の提出の際には直接出向く等をして協力関係の構築に努めている。	毎月、管理者は、市担当窓口に出向くなどして、事業所の取り組みや活動内容、運営推進会議で出された意見等について話しあうようにしている。また、事業所の運営やサービス等への助言を得ることができるよう取り組んでおり、協力関係が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で、身体拘束の内容や弊害に関する内部研修会やミーティングを行い、理解を深めている。見守りや声掛けを十分行いながら、安全を確保し身体拘束をしないケアに取り組んで利用者の自由な暮らしを支援している。	事業所では、職員が身体拘束の弊害や内容を理解できるよう、研修や勉強会の機会を設けている。管理者と職員は、身体拘束の弊害を理解し、安全面に配慮した自由な暮らしができるようになっている。	今後は、安全性により配慮しつつ、継続的な見守りや声かけを充実させるなどして、階段やエレベーターを利用者が自由に利用できる機会を増やす事ができるように検討されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修会に参加したり、内部での勉強会で理解を深め、利用者に対して言葉使いも含め虐待のない介護を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修に参加し職員で学習している。必要時には相談・検討し関係者と連絡を取り活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結時や解約の申し出の際、管理者が本人や家族に十分な説明を行い、不安や疑問、不明な点にも答えて、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をリビングで開催し、利用者や家族が出席しやすいよう配慮している。日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりに寄り添い、本人の思いを大切にしたケアに取り組んでいる。家族会や面会時には、意向や希望を聞いている。	事業所では、一人ひとりに担当職員を定めるなどして、日々の利用者との関わりの中で、寄り添い、本人の思いを大切にしたケアに取り組んでいる。家族の来訪時には、利用者の生活の様子を伝えるなどして、意向や希望を聞くようにしている。家族が話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。出された意見は、職員間で話しあうなどして、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者との関わりの中で気づいたことや意見・提案を毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングで検討し実践するよう努めている。	管理者は、朝礼やミーティングで出された意見等は、ケアカンファレンスで話しあうなどして、日々のケアに取り入れている。また、職員一人ひとりのケアに対する思いや気づき、アイデアなどを大切に考え、個々の意見に耳を傾けるなどして働く意欲の向上につなげたり、業務改善に向けた実践の機会を設けたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいや向上心を持って働くことが出来るよう、いろいろな研修への参加を勧めたり、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて研修を受講できる機会を作り、個人のスキルアップを図っている。研修内容はミーティングで発表し、報告書は全職員で回覧して日頃のケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに積極的に参加し、事業所での行事にお誘いしたり、他事業所の催し物見学など、同業者との交流を通して情報交換や勉強を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、ゆっくり向き合って耳を傾け、困っている事や要望を受け止め、安心感が持て信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族として困っていること、不安なこと、悩みや要望などに耳を傾け、共有し、安心感が得られるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いをし、今現在どのような支援を必要としているかを見極め、協力病院に相談したり、必要なら他のサービス利用を紹介するなど、事業所として出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対して生活のパートナーとしての意識を持ち、利用者に寄り添い、話を聞き、喜怒哀楽を共にして支え合う、家族のような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、いつでも気軽に来て頂ける雰囲気作りをし、面会時に近況報告をしたり、行事参加の時には楽しい時間を共に過ごしてもらえよう配慮し、本人を共に支援する関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と家族の絆を大切に捉え、買い物や墓参り、外食などを支援している。また、誕生日には本人の意向に添った外出支援を行うなど、本人が培ってきた人間関係や社会との関係が継続できるよう支援している。	事業所では、利用者がこれまで培ってきた人間関係や近所づきあいを大切に考え、関係が継続できるよう支援している。利用者と職員が、個別に出かける際には、自宅に一時帰宅したり、思いでの場所に立ち寄りして、馴染みの関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなどの時には職員が利用者の中に入って一緒に過ごし、各自の個性を考えながら利用者同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう、声掛け・関わりを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居など他の施設に移っても、利用者と共に面会や訪問をして経過を見守り、本人や家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人や家族の意向、要望を聞いたり日頃の何気ない会話や視線の動きなどから生活の思いや希望を把握するよう努めている。	職員は、日常の利用者との関わりの中で、何気ない言葉や表情を見逃さず、本人の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な方にも、担当職員が、入浴の際や居室などで個別に寄り添い、思いや意向を汲み取り把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人の生活歴や馴染みの暮らし、入居に至るまでの経過などを把握し、今までの生活に少しでも近づけるよう、また安心して自分らしく生活出来るようそれぞれに合った支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の体調や機嫌を把握し、本人のペースで一日を過ごされる配慮している。また、個々の出来る力・わかる力の把握に努めそれぞれの能力に合ったものを提供出来るよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づいた事やアイデアを出し合い、本人や家族の要望や意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成・見直しを行っている。課題分析と評価を繰り返し行い、全職員が、利用者一人ひとりの介護計画に応じたケアに取り組んでいる。	介護計画は、本人や家族の意向を尊重したうえで、関係者間でアイデアを出し合うなどして作成している。職員間で情報の共有ができるよう、個別記録用紙を添付し、評価やモニタリングを行っている。利用者の心身の状況の変化に応じて、随時見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、利用者の発言・行動・健康状態等を記入し、情報を共有。日々の介護に活かしたり、サービス計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊や通院など本人や家族の気持ちや状況に応じて対応している。また、在宅の要介護者に対して短期利用型共同生活介護サービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの情報が出来るだけ多く得られるよう、ご近所様・地域包括支援センター・病院・理美容院・郵便局・消防・警察・民生委員・学校などと交流を図り地域の人の力や場を借りるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。また、家族と連絡を取り合い、協力を得て、専門医の受診を受けることによって急な診察の際にも適切な医療を受けられるように支援している。	入居時の段階で、利用者や家族の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。かかりつけ医や協力医療機関と連携を図り、適切な医療が継続して受けられるようにしている。専門科の受診時には、家族の協力を得て支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は普段の生活の中から利用者一人ひとりの体調や表情の変化に気づき見逃す事のないよう見守り、観察を行って異常の早期発見に努めている。かかりつけ医や病院看護師、訪問看護師と常に連携を図りながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した特には、担当医や看護師、相談委員情報交換や相談を行っている。また本人の不安が軽減出来るよう頻繁にお見舞いに行き安心して早く回復出来るよう支援し、退院前には病院でのカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、契約の段階で事業所の方針を説明し、本人の意志や家族の意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて家族や関係者間で話し合い、本人や家族が安心して過ごす事ができるよう、終末期ケアの実践に取り組んでいる。	契約時の段階で、管理者は、利用者や家族に終末期に関する事業所の方針を説明している。事業所でできる事を明確にしつつ、話しをするなどして同意を得ている。利用者の心身の状況の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認し、医療機関や職員間で方針を共有するなどして、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、慌てる事なく適切な処置が確実に出来るようマニュアルを作成し、実践力を身に付けられるよう、内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、火災や地震・水害等の災害に備えての避難訓練を定期的に行ない、消防署の協力を得ての訓練には地域住民の参加もあり、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	年2回、事業所では消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。地域の住民も参加するなどしている。毎月、利用者と職員は、事業所独自の夜間を想定した火災通報や避難経路の確認を行うなどして、対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない接し方が出来るよう気をつけている。職員間で、利用者の尊厳を否定するようなケアや声掛けを行っていないかについて確認し合っている。	管理者と職員は、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保の徹底に努めている。利用者一人ひとりへのさり気ない気配りや声かけに配慮したケアの実践に取り組んでいる。職員間で、利用者の尊厳を否定するような態度や言動が行われていないかなど、確認し合い振り返りを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での何気ない会話やつぶやき・表情や行動の中から本人の思いや希望をくみ取り、その人らしく過ごせるよう支援している。一人ひとりに合った言葉かけを行い、本人が意思決定出来るよう働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで動くのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、思ったように過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から本人の意向や好みの服装、髪型等を観察し、清潔でその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。外出時に季節に合った好みの衣類を選び購入することもある。訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で採れた野菜や地域住民から差し入れてもらった果物等を活用し、季節に合わせた献立で利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで楽しく会話しながら食事を味わっている。配膳や片付け、テーブル拭きなども一緒にして、食事の時間を楽しみにしている。	事業所では、食前に口腔体操を行うなどして、食欲や食事への関心を高められるように努めている利用者は、馴染みの箸と湯飲みを使っている。献立は、利用者にとって親しみのある家庭料理が多く、事業所の菜園で育てた野菜を調理に取り入れるなどしている。利用者と職員は、同じ食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人内の他サービス事業所の管理栄養士が作成した献立を参考に栄養バランスに富んだ食事を提供している。また、かかりつけ医の指示の下、形態や食事量・水分量に配慮し、一人ひとりの状態に応じた食生活が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士の指導と歯科医師の診察を受け、口腔ケアの大切さを学んでいる。食後のうがいや歯磨きの声掛け、義歯洗浄剤の使用など、その人に応じた支援を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握して、職員間で情報を共有し、一人ひとりの力を知り、適切な誘導と声掛けをすることにより、トイレでの自立した排泄が出来るよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、トイレ誘導や声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間も、トイレで排泄することができるよう促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分・乳製品の摂取に努め、毎朝の体操や歩行訓練、散歩など体を動かす事も勧めている。また腹部のマッサージにより腸の動きを促すことにも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、体調に注意しながら個々に沿った支援をしている。好みのシャンプーやタオルを使ったり、シャワー浴や足浴をするなどして、楽しくリラックスできる時間になるよう努めている。	事業所では、利用者の心身の状況に応じて、週2～3回程度、入浴ができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、無理強いする事なく、声かけや対応の工夫により一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や、その時々状況による休息時間の確保により生活リズムを整え、室温や明るさに配慮し、夜間安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理の大切さを理解し、飲み忘れや間違いがないよう重ねて確認している。薬の変更があった時には細やかな状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を把握したうえで、自発的な日常生活の役割を担って頂くことを尊重し達成感や満足感、気分転換につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って、季節の花見や阿波踊りなどに出かけたり、利用者の誕生日には、本人の思いや希望を叶えるため、行きたい所へ出かけるなどの支援も実施している。日常的な散歩の時には、ご近所様とのふれあいを持つ事ができている。	利用者と職員は、季候の良い日には近隣へ散歩や買い物に出かけたりしている。利用者の誕生日には、本人の希望に応じた外出支援も行っている。家族の協力を得るなどして、積極的に外出ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望に合わせて金銭を所持し外出の時に使用するなど、社会との繋がりが維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にお便りを出すために、ハガキやペンを用意し、希望に応じて連絡が取れるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関、廊下などの共用空間には季節の花々や利用者の作品などを飾り、生活感や季節感を出している。大きな窓からは暖かい日差しが差し込み、季節の移り変わりを感じることができ、台所からは食事作りの音やにおいを感じられ、居心地のよい空間となっている。	共有空間は、暖かい日差しが差し込んでおり、明るく開放感のある空間となっている。玄関前には多種多様な木や花が植えられており、季節感を感じることができる。また、玄関や洗面所などにも、季節の花が生けられているなど、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳敷きの場所や、リビング・廊下に配置したソファでは、ゆったりと一人でくつろいだり洗濯物を畳んだり、利用者同士が会話を楽しんだりして、思い思いの場所でリラックスして過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者や家族と相談し、使い慣れた家具や愛着のある品を持ち込んでもらっている。居室には、本人の好みの写真やポスター・カレンダー・花などを飾り一人ひとりが居心地よく過ごす事が出来るよう支援している。	事業所では、入居時に利用者や家族と相談するなどして、使い慣れた馴染みの家具や品物を持ち込んでもらっている。居室には、家族との写真や季節の花が飾られたり、配偶者の位牌が置かれたりして、一人ひとりが居心地良く安心して過ごすことが出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの（できる力・わかる力）を把握し、それぞれに合った方法での支援により、できるだけ自立した生活を安全に送ってもらえるよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた、事業所独自の理念を掲げ、毎日の朝礼で“職員の心得”とともに共有し日々の実践に活かす介護を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いつでも来所して頂けるホームとして地域に知って頂けるよう、月に一度、「すだちカフェ」を開催し、地域の方にボランティアに来てもらったりカフェを利用して頂き、利用者との交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に気軽に「すだちカフェ」を利用して頂きグループホームの利用者との交流を通して、認知症の人の理解や支援の方法を広く伝える事ができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、利用者の状況や行事について報告している。また、テーマを決めて研究発表や出席者との意見交換をし、アドバイスや提案をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定の更新手続きや、運営推進会議の議事録、利用実績報告書等の提出の際には直接出向く等をして協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で、身体拘束の内容や弊害に関する内部研修会やミーティングを行い、理解を深めている。見守りや声掛けを十分行いながら、安全を確保し身体拘束をしないケアに取り組んで利用者の自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修会に参加したり、内部での勉強会で理解を深め、利用者に対して言葉使いも含め虐待のない介護を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修に参加し職員で学習している。必要時には相談・検討し関係者と連絡を取り活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結時や解約の申し出の際、管理者が本人や家族に十分な説明を行い、不安や疑問、不明な点にも答えて、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をリビングで開催し、利用者や家族が出席しやすいよう配慮している。日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりに寄り添い、本人の思いを大切にケアに取り組んでいる。家族会や面会時には、意向や希望を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者との関わりの中で気づいたことや意見・提案を毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングで検討し実践するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいや向上心を持って働くことが出来るよう、いろいろな研修への参加を勧めたり、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて研修を受講できる機会を作り、個人のスキルアップを図っている。研修内容はミーティングで発表し、報告書は全職員で回覧して日頃のケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに積極的に参加し、事業所での行事にお誘いしたり、他事業所の催し物見学など、同業者との交流を通して情報交換や勉強を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、ゆっくり向き合って耳を傾け、困っている事や要望を受け止め、安心感が持て信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族として困っていること、不安なこと、悩みや要望などに耳を傾け、共有し、安心感が得られるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いをし、今現在どのような支援を必要としているかを見極め、協力病院に相談したり、必要なら他のサービス利用を紹介するなど、事業所として出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対して生活のパートナーとしての意識を持ち、利用者に寄り添い、話を聞き、喜怒哀楽を共にして支え合う、家族のような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、いつでも気軽に来て頂ける雰囲気作りをし、面会時に近況報告をしたり、行事参加の時には楽しい時間を共に過ごしてもらえよう配慮し、本人と共に支援する関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と家族の絆を大切に捉え、買い物や墓参り、外食などを支援している。また、誕生日には本人の意向に添った外出支援を行うなど、本人が培ってきた人間関係や社会との関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなどの時には職員が利用者の中に入って一緒に過ごし、各自の個性を考えながら利用者同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう、声掛け・関わりを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居など他の施設に移っても、利用者と共に面会や訪問をして経過を見守り、本人や家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人や家族の意向、要望を聞いたり日頃の何気ない会話や視線の動きなどから生活の思いや希望を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人の生活歴や馴染みの暮らし、入居に至るまでの経過などを把握し、今までの生活に少しでも近づけるよう、また安心して自分らしく生活出来るようそれぞれに合った支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の体調や機嫌を把握し、本人のペースで一日を過ごされる配慮している。また、個々の出来る力・わかる力の把握に努めそれぞれの能力に合ったものを提供出来るよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づいた事やアイデアを出し合い、本人や家族の要望や意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成・見直しを行っている。課題分析と評価を繰り返し行い、全職員が、利用者一人ひとりの介護計画に応じたケアに取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、利用者の発言・行動・健康状態等を記入し、情報を共有。日々の介護に活かしたり、サービス計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊や通院など本人や家族の気持ちや状況に応じて対応している。また、在宅の要介護者に対して短期利用型共同生活介護サービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの情報が出来るだけ多く得られるよう、ご近所様・地域包括支援センター・病院・理美容院・郵便局・消防・警察・民生委員・学校などと交流を図り地域の人の力や場を借りるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。また、家族と連絡を取り合い、協力を得て、専門医の受診を受けることにより急な診察の際にも適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は普段の生活の中から利用者一人ひとりの体調や表情の変化に気づき見逃す事のないよう見守り、観察を行って異常の早期発見に努めている。かかりつけ医や病院看護師、訪問看護師と常に連携を図りながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、担当医や看護師、相談委員情報交換や相談を行っている。また本人の不安が軽減出来るよう頻繁にお見舞いに行き安心して早く回復出来るよう支援し、退院前には病院でのカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、契約の段階で事業所の方針を説明し、本人の意志や家族の意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて家族や関係者間で話し合い、本人や家族が安心して過ごす事ができるよう、終末期ケアの実践に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、慌てる事なく適切な処置が確実に出来るようマニュアルを作成し、実践力を身に付けられるよう、内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、火災や地震・水害等の災害に備えての避難訓練を定期的に行ない、消防署の協力を得ての訓練には地域住民の参加もあり、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない接し方が出来るよう気をつけている。職員間で、利用者の尊厳を否定するようなケアや声掛けを行っていないかについて確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での何気ない会話やつぶやき・表情や行動の中から本人の思いや希望をくみ取り、その人らしく過ごせるよう支援している。一人ひとりに合った言葉かけを行い、本人が意思決定出来るよう働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで動くのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、思ったように過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から本人の意向や好みの服装、髪型等を観察し、清潔でその人らしいおしゃれが出来よう支援している。外出時に季節に合った好みの衣類を選び購入することもある。訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で採れた野菜や地域住民から差し入れてもらった果物等を活用し、季節に合わせた献立で利用者と職員が一緒にテーブルを囲んで楽しく会話しながら食事を味わっている。配膳や片付け、テーブル拭きなども一緒にして、食事の時間を楽しみにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人内の他サービス事業所の管理栄養士が作成した献立を参考に栄養バランスに富んだ食事を提供している。また、かかりつけ医の指示の下、形態や食事量・水分量に配慮し、一人ひとりの状態に応じた食生活が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士の指導と歯科医師の診察を受け、口腔ケアの大切さを学んでいる。食後のうがいや歯磨きの声掛け、義歯洗浄剤の使用など、その人に応じた支援を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握して、職員間で情報を共有し、一人ひとりの力を知り、適切な誘導と声掛けをすることにより、トイレでの自立した排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分・乳製品の摂取に努め、毎朝の体操や歩行訓練、散歩など体を動かす事も勧めている。また腹部のマッサージにより腸の動きを促すことにも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、体調に注意しながら個々に沿った支援をしている。好みのシャンプーやタオルを使ったり、シャワー浴や足浴をするなどして、楽しくリラックスできる時間になるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や、その時々状況による休息時間の確保により生活リズムを整え、室温や明るさに配慮し、夜間安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理の大切さを理解し、飲み忘れや間違いがないよう重ねて確認している。薬の変更があった時には細やかな状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を把握したうえで、自発的な日常生活の役割を担って頂くことを尊重し達成感や満足感、気分転換につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って、季節の花見や阿波踊りなどに出かけたり、利用者の誕生日には、本人の思いや希望を叶えるため、行きたい所へ出かけるなどの支援も実施している。日常的な散歩の時には、ご近所様とのふれあいを持つ事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望に合わせて金銭を所持し外出の時に使用するなど、社会との繋がりが維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にお便りを出すために、ハガキやペンを用意し、希望に応じて連絡が取れるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関、廊下などの共用空間には季節の花々や利用者の作品などを飾り、生活感や季節感を出している。大きな窓からは暖かい日差しが差し込み、季節の移り変わりを感じることができ、台所からは食事作りの音やにおいが感じられ、居心地のよい空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下に配置したソファでは、ゆったりと一人でくつろいだり洗濯物を畳んだり、利用者同士が会話を楽しんだりして、思い思いの場所でリラックスして過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者や家族と相談し、使い慣れた家具や愛着のある品を持ち込んでもらっている。居室には、本人の好みの写真やポスター・カレンダー・花などを飾り一人ひとりが居心地よく過ごす事が出来るよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの(できる力・わかる力)を把握し、それぞれに合った方法での支援により、できるだけ自立した生活を安全に送ってもらえるよう心掛けている。		